

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.1 7 3】
添付ファイル: なぜ君はそこにいるージアゼパム：日経メディカル.pdf; 覚醒剤で逮捕された芸能人が「ありがとうございます」と話すワケ 何度も同じ人を逮捕するという矛盾 _ PRESIDENT Online (プレジデントオンライン) .pdf; 周囲に「しんどい」と言えない人ほど薬物にハマりやすい _ 人に頼るのがヘタ_だから薬をやる _ PRESIDENT Online (プレジデントオンライン) .pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 400 カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。
本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1) 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA-HP の「お問合せ」をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2) 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3) 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送・SNS 拡散」してください。

【目次】

1. 個人情報保護法への対応について
2. なぜ君はそこにいるージアゼパム (一括添付)
3. 覚醒剤で逮捕された芸能人が「ありがとうございます」と話すワケ (松本俊彦) (一括添付)
4. 周囲に「しんどい」と言えない人ほど薬物にハマりやすい (松本俊彦) (一括添付)
5. マリンクロット、16 億ドルでオピオイド訴訟和解
6. 「情報提供書」の郵送 (非公開)

【記事】

1. 個人情報保護法への対応について
当会は、会員の個人情報の管理について、個人情報保護法に基づき、合法かつ適正に管理しています。また、当会は、会員の個人情報について、当会の設立趣意書のとおり、「ベンゾジアゼピン薬害」の解決に必要な情報提供等の活動上の利用に制限して利用します。目的外の利用は行いません。
これまで、個人情報保護法への対応方法が規定されていませんでしたので、今回作成して、以下の BYA-HP に掲載しました。

ご指摘事項等があればご連絡ください。

<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/%E5%80%8B%E4%BA%BA%E6%83%85%E5%A0%B1%E4%BF%9D%E8%AD%B7%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6/>

2. なぜ君はそこにいるージアゼパム (一括添付)

<https://medical.nikkeibp.co.jp/inc/mem/pub/series/murakawa/202003/564547.html>

以下引用

『診察中にふと気付く……。

処方箋の中に「抗不安薬のジアゼパム」がいる。

ベンゾジアゼピン系ということは分かる。商品名は？

アルプラゾラムがコンスタン、トリアゾラムはハルシオン。

しばらくして、ジアゼパムは「セルシン」だと思い出す。

なぜ処方されているのか？

患者さんも「なぜ飲んでいるのか知らぬ」と言う。
なんてことがたまにあるので、今回はジアゼパムとそのあたりのお話。』

こういう薬物を継続して連用すれば、人間が持つ本来の自然の姿が壊れるのは当然であろう。

3. 覚醒剤で逮捕された芸能人が「ありがとうございます」と話すワケ（松本俊彦）（一括添付）

<https://president.jp/articles/-/33166>

以下引用

『【松本】まあ、いいか。思い切って言ってしまいますけど、「違法化などの規制を設けることによって、ビジネスが成り立っている人が多く存在する」という話です。いわゆる既得権益というヤツですね。有名な例で言えば、アメリカの禁酒法（1919～1933年）です。当時、酒を密造するギャングを取り締まるため、アルコール捜査官を3万5000人雇ったのですが、禁酒法が廃止されると、この雇用が失われてしまう。そこで、雇用を維持するために新たな規制が必要となり、そのターゲットとして選ばれたのが大麻だったんです。』

記事の写真を見ると、大麻で逮捕された元NHK記者と一緒に、2人の怪しい男が写っている。

4. 周囲に「しんどい」と言えない人ほど薬物にハマりやすい（松本俊彦）（一括添付）

<https://president.jp/articles/-/33168>

以下引用

『【松本】塚本さんもそうだけど、ほかの薬物依存症の人たちもセルフ・スティグマ（自分自身に持つ偏見）が強くて、“頼るのがヘタな人”が多いんです。しんどいときでも自分で解決しなくてはいけないと思込んでいるから、酒やクスリを使ってその場を乗り切ってきた、という人が多い。だから「頼ってはいけない」という自縛に加え、「刑事法で罰せられた犯罪者」という事実がますますそのスティグマを強めてしまう。そんな人たちが精神科を訪れるというのは、実はすごく大変なことなんです。』

そういう松本は「ベンゾジアゼピンは医師の処方に従えば依存症にならない」、「ベンゾジアゼピン依存症は医学的治療の対象ではない」と証言しているのであるから、信用ならない。

5. マリンクロット、16億ドルでオピオイド訴訟和解

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2020-02-25/Q68SZ4T0AFBB01>

以下引用

『米製薬会社のマリンクロットは、オピオイド中毒問題に関連する訴訟の和解で16億ドル（約1800億円）の支払いに同意した。同社は一部の事業部門について連邦破産法11条に基づく会社更生手続きを申請する。』

日本の「ベンゾジアゼピン薬害」も、そのような賠償和解が成立する日が来ることを願って、我々は活動する。

6. 「情報提供書」の郵送（非公開）

以下に対して、「情報提供書」を郵送した。本情報提供書は、必要上、非公開とする。

- (1) 厚生労働省 医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課長
- (2) 関東信越厚生局 麻薬取締部
- (3) 警視庁 組織犯罪対策5課



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史